

留 学 報 告 書

令和 7年 7月 26日

学 部 総合理工学部 学科・課程 建築デザイン学科

氏 名 大島 彩華

1. 留学先大学・学部 国名 タイ

大学名 キングモンクット工科大学トンブリ校

現地到着日 (2024 年 7月 31日) 授業開始日 (2024 年 8月 6日)

現地出発日 (2025 年 6月 13日) 授業終了日 (2025 年 5月 15日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

TOEFLの受験、島根大学での試験（面接）

留学決定後

・留学先からの入学許可証の取り寄せ、航空券の予約を行い、駐日タイ王国大使館へ学生ビザの申請

・留学先の大学とメールで受講するクラスの相談や住居に関するやりとり

・決定したアパートに到着日を連絡

・タイで使われているタクシー配車アプリGrabを事前に日本で登録

・日本円からタイバーツに換金

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

成田空港→スワンナプーム国際空港（バンコク） 飛行機で約6時間半

スワンナプーム国際空港→タイの自宅 タクシーで約1時間

自宅→留学先の大学（メインキャンパス） トラックバスで約5分/徒歩25分

メインキャンパスから通っていたキャンパス シャトルバスで約45分

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

交換留学なので基本的な手続きは島根大学を通して行った。

事前にメールで受講するクラスについて対面で相談する日を決めていたので、指定の日に自分が通うキャンパスへ行き話し合いをした。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オンラインで行われた事前説明会に参加。そこで学校について教えてもらい、大学側が用意したオンライン掲示板に自己紹介を書くなどの留学生同士の交流があった。

対面でのオリエンテーションが留学先の授業開始前にあったが日程が合わなかったため参加できなかった。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業は基本全て英語で行われ、1コマは3時間だが途中に休憩が設けられることも多い。授業中、学生はタブレットを使用していることが多かったがノートやパソコンを利用することもある。座学や実習など様々な種類の形式があるが日本の授業に比べプレゼンテーションや授業中に発言を求められることが多い。

試験は中間・期末に分けられるものもあった。私が受講したクラスはプレゼンテーション形式、持ち込みなしの筆記テスト、定期的な提出物などで成績評価がされた。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

私はインテリアデザイン・建築デザイン関連の授業を受講した。インテリアデザイン設計実習（スタジオクラス）は1日を通して行われる授業で、自分の設計を先生と相談しながら進めていく形式だった。事前準備や最終発表での模型製作・プレゼンテーション準備などかなり大変だったがとても勉強になったと思う。

また、インテリア空間や家具に使用されるマテリアルの性質や特徴などを学ぶ授業も面白かった。実際にグループの人とレストランや美術館にリサーチをしに行くこともあり実践的で楽しかった。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

留学先の大学から紹介があったCosmo Residenceというアパートに1人で暮らしていた。住人には留学生も多く、交流することもできる。学校からの紹介される物件は留学生の受け入れに慣れており、メールで連絡を行うことができたのでお勧め。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

私の住んでいたCosmo Residenceの部屋は、マットレス、テーブルや椅子、冷蔵庫、レンジ付きのワンルームとバスルーム（シャワー、トイレ）だった。キッチンはなく自炊をしたい場合は電気鍋などの調理器具の購入が必要になる。鍵はカードキーで、室内に置き忘れたりすると管理人に伝え、料金を支払って新しいカードキーをもらう。洗濯は敷地内にある共用のコインランドリーを使用していた。

アパート1階には管理人室と小さな飲食店があり便利だった。プールや小さめのジムがあり利用している人もそれなりにいた。気さくな警備員複数人が常にいて、周辺の治安も悪くないので比較的安全な環境。

家賃支払いは現金のみで、毎月管理人室へ行き支払う。寮ではないので閉鎖される期間はないが管理人がいる時間帯は決まっているので営業時間のチェックはしておくが良い。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

Bangkok Bankの口座を開設しそこからQR決済などを行っていた。日本語対応のデスクがあり、そこで留学先の大学入学許可証のコピーとパスポート、タイの携帯電話を提示した。現金はWiseを通してBangkok Bankに送金後引き下ろしていた。

スーパーやコンビニなどの買い物にはクレジットカードも利用可能だが、ローカルな店やバスなどの運賃は現金支払いのみ（タイの銀行のQR決済は可能）の場合も多いので現金はある程度必要。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

キャンパスは3つあり、それぞれシャトルバスでつながっている。

メインキャンパス（Bangmod）に国際課や制服など基本的なものが売っているブックストアがあり、1番規模が大きい。情報系や工学、理学部などの棟がある。

私の通っていたキャンパス（Bang Khun Thian）には建築や映像などの芸術系学部が集まっている。メインキャンパスからはシャトルバスで約45分。この事務にも留学担当デスクがあり授業に関することやビザについての質問はここへ聞きに行った。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

住んでいた地域はローカル寄りの雰囲気、買い物はコンビニや小規模のスーパー、露店や小規模な飲食店などを利用していた。また、デリバリーがアプリ（Grabなど）を通して気軽にできたので飲み水や食事などを頼んだりしていた。ATMは学校内にもあり現金が必要な時は利用していた。

バンコクの中心地はかなり栄えておりデパートなどの大規模商業施設がたくさんある。たまにバスやタクシーで中心部まで出て、レストランへ行ったり大型スーパーで買い物をして帰った。中心地は高架鉄道や地下鉄があり、様々な場所に気軽に行くことができる。バンコクには日本人も多く、日本食や日系スーパーも充実していて便利。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

到着した初日は飲み物も食べ物もあまり手持ちがなく、外も暗かったため少量の水とお菓子を食べて耐えた。出発時点で荷物がかなり多く、食料品はあまり持ってきていなかったのが空港で何か買うなどしておけばよかった。

受講するクラスの相談をするため大学に行った日、自宅から近いメインキャンパス（Bangmod）に行ったが指定されていた場所は別のキャンパス（Bang Khun Thian）で遅刻した。留学担当者にメールでどうすれば良いか聞き、タクシーを使って向かった。留学担当の人も先生たちも優しくかったので特に何も言われず、授業相談後は学校の案内とシャトルバスの使い方を教えてもらった。

授業開始初日、教室に行っても誰も来ないことがあり、同じ交換留学の学生と事務室へ行くと先生の都合で初回は休みだと言われた。最初は情報網がないのでこういった授業に関する連絡を知らない場合も多い。状況が把握できないときは、同じ教室にいる学生や事務などに聞きに行くべきであることを学んだ。また、同じ授業を取っている学生とはできるだけ連絡先を交換しておくほうが良い。

友人3人とタクシーを使って中心地から自宅に帰る際、メーター料金×人数分で請求され、明らかに不当な請求だったがどう言えば良いのか分からずトラブルになっても怖いので黙って支払った。タイでは観光客

に高い値段を請求したり、メーターは使用せず言い値で請求するタクシーも多い。金額は少し上がるがタクシー配車アプリを通して乗る方が安全でスムーズであることが分かった。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようにになっていたか、保険等はどのようにしたか）

バンコクの中心地にあるサミティベート病院スクムビットへ行った。バンコクに住む日本人によく利用されている病院で日本語通訳もいる。電話予約を行った後、予約時間に合わせて来院し診察、薬の処方された。保険は島根大学を通して加入したため、病院での支払いはなかった。

15. お世話になった方々

大学では特に留学担当をしていた方にお世話になった。LINEでやりとりを行うことができ、履修のことや担当教授との連絡をつないでくれたり様々な相談をした。メインキャンパスにある国際課の方々にもお世話になったが、私は通うキャンパスが違ったのであまり行く機会はなかった。

現地の学生にもお世話になった。タイ人の学生にはおすすめの観光場所の紹介や案内をしてもらった。大学内には近隣国からの正規留学生も多く、外国人としてタイに滞在するためのビザに関する情報を教えてもらえた。

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

バンコクからチェンマイへ1泊2日。飛行機往復＋ホテル約54,000円

17. 気候と服装について

温暖な気候なので基本は夏服。日差しが強いこと、室内ではエアコンが効いていることも考慮し上着がある方がよい。雨期には大雨が降るため折り畳み傘を日本から持参した。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品、衣服、食品、薬、運転免許証等）

日本の品質の文房具を探すのは難しいので日本から持っていくと安心。また、風邪薬は環境の変化による体調不良やすぐに病院へ行けない時に助かった。

日本のインスタント食品やお菓子などがあると気分転換になる。（タイ、バンコクの都心部では日系スー

パーも充実しており多少値段は高くなるが日本のものを食べることは可能)

パスポートサイズの顔写真も数枚あると便利。ビザの更新や旅行などでタイを離れ再入国する際に必要な書類には顔写真があるので、写真を撮ってもらえるお店はあるが証明写真機のようなものは滅多に見当たらないので急ぎの場合には手元にあると助かる。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

1冊タイ語の本を買っていったが、基本はタイに関する記事やタイに駐在している人らのSNSなどインターネットで情報収集をしていた。

20. ホームステイの依頼方法

21. 留学費用について

1) 旅費	(往)	約38,000	円,	(復)	約42,000	円
2) 準備費用		約8万	円			
3) 大学へ納入する費用		(特になし)	円			
授業料 (年間合計)		(島大の授業料)	円			
保険等その他の費用		約9万	円			
4) 住居費 (光熱費等含む)		約36万	円			
5) 衣服代, その他雑費		約9万	円			
6) 帰国時の土産代, 郵送料等		約3万	円			
7) 留学先国内旅行費用		約6万	円			
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		約79万	円			
現地通貨	バーツ	日本円換算 (レート)	約4.5	円		

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

帰国前、家族がタイに旅行に来たためその際に荷物の一部を持って帰ってもらった。自分が帰国する際は大きなスーツケース1つ (預け荷物 23kg) と小さめのスーツケース (持ち込み)、リュックに荷物を詰めた。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

出来ないことはできないと割り切れるようになり、できないなりにどうすればよいか考えられるようになった。私は3年生後期からの交換留学だったため、留学先でも基本3年生のクラスを受講していた。しかし、その大学の雰囲気やシステム、ルールが曖昧で気分的には新入生だが求められるレベルは3年生のレベルでそのギャップに苦労した。基本的にはついていくのに必死で良い成績をとという考えはあまり持てなかった。でもとりあえず真似をしてみたり完ぺきではないけれど完成させることを繰り返していくうちに少しずつ成長できているような気がした。うまくいかない状況で頑張ってみるという経験ができた貴重な機会だったと今になって思う。

語学の面では、大学での授業や学生との会話は英語だったため英語力は向上したように感じる。英語圏への留学に比べるとまだまだかもしれないが渡航前の自分と比べると成長した。特に授業では、次に自分は何をしなければならないかを理解するため、かなり集中して話を聞いていたのでリスニング力が培われた。スピーキング力も自分の考えや意思表示をするために繰り返し使うフレーズは身に着いた。しかし積極性が足りず、たくさん話す機会は少なかったのもまだまだといったところで留学生活は終わった。この経験を通して、何事にも興味と積極性を持ち、失敗も気にしすぎない精神が成長につながることを学んだ。

タイでの生活は日本とは違う部分もたくさんあり、新鮮に感じることも多かった。急速に開発される都心部とそのままの地域が混在するバンコクは興味深い場所であり、そこで生活することができたことに価値を感じている。日本やアメリカ、ヨーロッパとはまた違ったタイ独自の文化や価値観を学ぶ事ができ視野が広がった。
